

パワフルAOMORI！創造塾 講座第1回

パネルトーク「わたしがコトをおこしたとき パワフル編」

平成27年5月23日（土） 青森県総合社会教育センター 第1多目的研修室 参加者71名

今年度第1回目の講座は、「わたしがコトをおこしたとき パワフル編」と題して、青森大学地域貢献センター長・教授の柏谷至先生をコーディネーターに、「tovo」代表の小山田和正氏、「八戸ハマリレーションプロジェクト」局長の古川篤氏、「TMG48」代表の前田美保子氏をパネリストとして、コトをおこしたきっかけや活動への想いを語り合っていました。

第1部 事例発表（コトをおこしたきっかけ、活動内容等）

tovo

東日本大震災後、陸前高田等でのボランティアに参加。悲惨な現地の状況の中で、笑顔で遊ぶ子どもたちを目の前にしたのがきっかけで、五所川原に戻るとすぐ活動をスタートさせる。

チャリティーグッズを製作販売しながら、震災により親を失った子どもたちを支援している。

10年間活動することを目標とし、フルマラソンにたとえると、現在16.5km地点。活動する中で全国から協力者が現れ、それぞれの方法で活動を支援している。

八戸ハマリレーションプロジェクト(HHRP)

東日本大震災により、勤務先は中2階まで津波に襲われ、久慈の工場は全壊。これを機に、八戸から三陸の元気を発信したい、同世代の女性や子どもたちに、八戸の魚を愛してもらいたいと思いつつ。

勤務先のライバル会社等から同志を集め、活動をスタート。「八戸ブイヤベースフェスタ」「八戸子どもレストラン」等、周りを巻き込みながら、おもしろくてわくわくする活動を実施し、ハマを活気づけて新しい価値を生み出そうとしている。

TMG48

日本有数の桜の回廊、十和田市の「官庁街通り」。桜が咲き乱れる春まつり期間中、毎年設置されてきた「さくら案内所」が廃止の危機に。そこで、友人等に声をかけ、案内所を存続させたのがきっかけ。

平成24年の結成以来、十和田のために何かしたいという女性が集まり、市内のイベントでのボランティアや自分たちが十和田に詳しくなろうという想いから始まった勉強会を実施している。ゆるキャラの「ねぎんちゃん」「駒桜ちゃん」もメンバーの一員。

第2部 交流タイム

パワフルAOMORI！創造塾で恒例となっている「交流タイム」は、講師・参加者・運営者全員で、用意された簡易名刺を交換しながら、交流を深める時間です。

新たな仲間づくりとネットワークの形成・強化を目的に、今回も行われましたが、参加者からは、「様々な人と交流をして、新しい考えや様々な話を聞けて、とても良かった」、「人見知りでなかなか話すことができなかったけど、いろんな人のいろんな活動を聞けて良かった」など、多くの好評をいただきました。

交流タイムには、異世代や他地域の人々と交流できる、自分の学びを再確認できる、人と感動を共有できる、人の価値観に気づくことができるなど、多くの効果が期待できます。

「名刺が足りない！」という声も聞かれましたので、今回は枚数を増やし、より多くの人と交流が図れるようにしていきたいと思います。



参加者のみなさんは、左のような簡易名刺を交換しながら、思い思いに交流し、親睦を深めました。



第3部 フリートーク（パネリストたちの金言）

事例紹介や交流タイムを受け、さらに掘り下げて、パネリストの皆さんが想いを語りました。

- 小山田氏 ・好きなことを突き詰め、誰よりも詳しくなる。そこからやりたいことが見つかる。
- ・育てなきゃいけないのは、失敗してもそれを笑わない人たちを育てること。
 - ・活動に対して、強い気持ちを持った一人がいればいい。 ・失敗を恐れない。
- 古川氏 ・活動理念をメンバー同士が共有・理解することにより活動がぶれない。
- ・自分たちがブイヤベースを食べたかった！ ・私だけではなく、コアメンバー全員が代表。
 - ・自分の基準をいかに保ち続けられるか？それを根幹として自分が何をしたいか。
- 前田氏 ・周辺で応援してくれる人もメンバー。 ・やさしい活動から始めよう。
- ・人と会って言葉を交わすことから全てが始まる。 ・必ず応援してくれる大人がいる。
 - ・若い人や子どもたちを応援していける大人になろうよ。

ネガティブなことを言われてもスルー！ 猪突猛進！ 人間は十人十色。

柏谷先生のまとめ

3名のパネリストのバックグラウンドや活動内容は違うが、

- ①自分のスタイルをどう崩さずにいけるのか？
 - ②何かやりたいときどうしたらいいのか？
 - ③活動を否定されたときどう対処するのか？
- について共通する部分がありました。

「これが唯一のコトのおこしかた、お金の集め方」ということではないので、出発点として今日の内容をこれからの活動に生かしていただきたい。

アンケートの声

- ・自分でも何かできることがあるのではと気づくことができました。
- ・非常に楽しかった。有意義であった。心が震えた。このときめきを持続させていきたい。
- ・パネリストのコトをおこすきっかけと自分がしたいと思ったことが、すごく共通していて感動しました。
- ・何か背中を押していただいたように思います。
- ・私も好きなこと楽しいと思えることを、地域のために形にしていける人材になりたいと思いました。
- ・失敗を恐れずいろんなことに挑戦して、人とのつながりを広げていきたいと思いました。

〈コーディネーター・パネリスト紹介〉



柏谷 至 氏（青森大学地域貢献センター長・教授）

専門である環境社会学に関する研究教育活動と並行し、地球温暖化対策、公共交通、コミュニティ再生などの分野で、住民参加による地域課題解決のプロジェクトに携わる。参加者主体の学習や合意形成の手法としてのワークショップやファシリテーションの実践例も多数。2012年からは青森大学地域貢献センターのセンター長として、大学が立地する青森市幸畑団地や平内町などとの連携事業を担当している。



小山田 和正 氏（東日本大震災チャリティ tovo 代表）

2011年6月、東日本大震災によって親を失った子どもたちを青森から支援するプロジェクト「tovo/トヴォ」を立ち上げる。tovoが発行するポストカードサイズの小さなフリーペーパーの発行、チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会へ継続的に寄付している。これまでの寄付総額は、2015年4月30日現在で、3,133,241円となっている。



古川 篤 氏（八戸ハマリレーションプロジェクト 局長）

2011年、震災を契機に、「八戸を元気にしたい」という想いから八戸ハマリレーションプロジェクトを代表発起人として立ち上げる。八戸ブイヤベースフェスタ（2013年グッドデザイン賞受賞）、子ども向け魚料理教室、八戸こどもレストラン等、「八戸のハマ（水産品）」の価値の向上、愛着の強化、イメージアップのため、日々奮闘中！



前田 美保子 氏（TMG48 トワダもてなしガールズ 代表）

友人、知人などに声をかけ、2012年12月にTMG48 トワダもてなしガールズを結成。「女性パワー全開☆もっと十和田がスキになる 100点満点の笑顔のおもてなし☆」をキャッチフレーズに、十和田春まつりでの「さくら案内所」開設・運営の他、各種イベントにもボランティアスタッフとして参加し、十和田を元気にするため奔走中。